# 7　一本田清水ケ上遺跡

**所 在 地**：坂井市丸岡町八ッ口

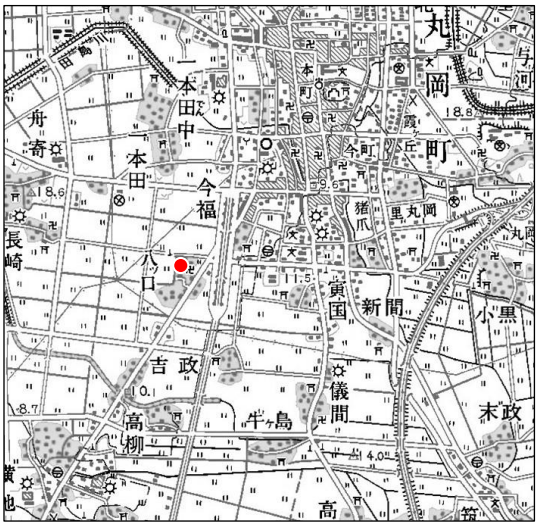
**調査原因**：主要地方道丸岡川西線福井港
　　丸岡インター連絡道路改良工事

**調査期間**：令和４年４月～12 月

**調査主体**：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

**調査面積**：8,550 ㎡

**時　　代**：平安～中世




位置図（S=1/50,000）

**遺跡について**　一本田清水ケ上遺跡は、坂井平野の東部、今の八ッ口の集落とその北西に広がる遺跡です。九頭竜川扇状地の端にあり、周辺では、複雑に流れる川を避けた小高い土地を利用して、いくつもの集落が営まれてきたことが知られています。

ハッロもそうした集落の１つで、今回調査した部分は、ハッロの集落からその西側の田んぼにわたる範囲です。調査では、鎌倉～室町時代の集落の跡を確認しました。

**主な遺構**　溝や井戸、建物の痕跡である柱穴などが複数見つかりました。溝はまっすぐもしくは直角に曲がりながら長く続いていました。建物の柱を建てるために掘った穴も見つかりました。建物の形に沿って四角く並んでいるとみられる穴もあり、どうやら、溝で土地を区画し、その中に建物や井戸をつくって暮らしていたようです。

これらは、いずれも鎌倉～室町時代のものです。なお、調査範囲の中でも、西側では鎌倉時代のものが、東側では室町時代以降のものが目立つ傾向にありました。

**主な遺物**　土師皿という素焼きのお皿が一番目立ちました。越前焼の甕や鉢など、加賀焼の甕、青磁のお碗、瓦質土器という黒く燻した焼き物で作った火鉢、銅銭、墨書をした板なども見つかりました。

このうち、火鉢は、上から見ると花の形をしています。このような火鉢の生産は、鎌倉時代の終わり頃に奈良で始まり、その後全国に広がったことが知られています。今回見つかった火鉢も、奈良で作られたものか、その影響を受けたものでしょう。

ここまで見てきた遺物は、鎌倉～室町時代のものです。このほかにも、古墳時代の甕や高坏、古代の坏なども見つかりました。　　（吉田悠歩）

図2　高坏　（南東から）

図3　火鉢

図4　溝　（南から）

図5　溝　（南から）

図6　井戸　（北から）

図7　溝　（西から）

図8　井戸　（南から）

図9　柱穴の集中　（東から）

図 10　柱穴の集中　（東から）

図1　調査区全景

図 11　溝（西から）